

令和5年度 第1回 名古屋市環境影響評価審査会  
会議録

1 開催日時

令和5年8月9日（水）午後2時～3時30分

2 開催場所

大会議室（東庁舎5階）

3 出席者

(1) 審査委員（五十音順、敬称略）

片山	直美	（名古屋女子大学教授）
黒澤	浩	（南山大学教授）
小林	健太郎	（名城大学准教授）
佐野	泰之	（愛知工業大学教授）
庄村	勇人	（名城大学教授）
田代	むつみ	（名古屋大学講師）
西田	佐知子	（名古屋大学准教授）
西野	隆典	（名城大学教授）
萩尾	健史	（名古屋大学助教）
橋本	啓史	（名城大学准教授）
増田	理子	（名古屋工業大学教授）
横田	久里子	（豊橋技術科学大学准教授）

計12名

(2) 事務局 地域環境対策部長始め5名

(3) 傍聴者 5名

4 議事及び意見等の要旨

事務局より、今回の審査会の出席者が12名であり、審査会が成立していることを確認した。また、本日のスケジュールについて簡単に説明した。

議題1 会長の選出

[事務局] それでは、議題1「会長の選出」に入りたいと思います。

会長の選出は、審査会規則第2条第2項の規定により、「委員の互選」によるものとされており、どなたか、会長に立候補あるいはご推薦などございますでしょうか。

[委員] 会長は、前回の審査会まで副会長を務めていただきました佐野委員にお願いしてはいかがでしょうか。

[事務局] ただ今、佐野委員を会長にご推薦いただきましたが、皆様いかがでしょうか。

[委員] （異議なし）

[事務局] 佐野委員、お引き受けいただけますでしょうか。

[委員] 僭越でございますが、引き受けさせていただきます。

[事務局] ありがとうございます。それでは本審査会の会長には佐野委員を選出することといたします。

続きまして、前副会長の佐野委員が会長になられるということで、副会長が不在となりましたので、副会長の選出を行います。

副会長の選出につきましても、「委員の互選」によるものとされておりまして、慣例的に会長に推薦をお願いしておりましたので、今回も佐野新会長にお願いしたいと存じます。もしご異議がないようでしたらそうさせていただきますようお願いいたします。

[委員] (異議なし)

[事務局] それでは、佐野会長、どなたかご推薦いただけますでしょうか。

[会長] よろしければ、黒澤委員に副会長をお引き受けいただきたいと思います。

[事務局] ただいま、黒澤委員を副会長にご推薦いただきました。皆様よろしかったでしょうか。

[委員] (異議なし)

[事務局] 黒澤委員、お引き受けいただけますでしょうか。

[委員] 引き受けさせていただきます。

[事務局] ありがとうございます。それでは、本審査会の副会長には黒澤委員を選出することといたします。

佐野委員は会長席へ、黒澤委員には副会長席へ席の移動をお願いいたします。

[事務局] それでは、佐野新会長、黒澤新副会長から、一言ずつご挨拶をいただきたいと思いたす。

[会長] (挨拶)

[副会長] (挨拶)

[事務局] ありがとうございます。

それでは、以後の議事の取り回しにつきましては、審査会規則第3条第1項の規定に基づき、佐野会長をお願いいたします。

報告1 LEGOLAND JAPANに係る事後調査結果中間報告書(工事中)(その3)について

[会長] それでは、議事の進行にまいりたいと思います。まず、報告(1)「LEGOLAND JAPANに係る事後調査結果中間報告書(工事中)(その3)について」事務局から報告をお願いします。

[事務局] (LEGOLAND JAPANに係る事後調査結果中間報告書(工事中)(その3)について説明)

[会長] ただ今の報告につきまして、ご意見、ご質問等はございますか。

[委員] 今回、名古屋市の事業で解体されるということですが、その部分は別に審査会で審査されて、大気汚染や振動などは問題ないという報告が出ているのでしょうか。

[事務局] 今回の解体工事に関しましては、特に調査などを行ったということは聞いておりません。

[事務局] 補足でございますが、今回の環境影響評価の手続きにつきましては LEGOLAND Japan 合同会社の事業でございますので、LEGOLAND Japan 合同会社に責任を持ってやっていただく内容となります。解体工事はこの図書には載ってこないですが、名古屋市がやっておりますので、名古屋市が責任を持って騒音・振動など環境法令に基づいて適正にやっているという次第です。

[委員] PFI というのは、いつ契約が結ばれて、どういう経緯で議論が進められたのかという背景を教えてくださいと思います。

[事務局] PFI 事業がどういうふうに進んだかの経緯につきましては、名古屋市の所管の部局に確認して、後日回答いたします。

## 報告 2 「中央新幹線 品川・名古屋間」に係る事後調査結果中間報告書（工事中）（その 3）（名古屋市）について

[会長] 続きまして、報告(2)『「中央新幹線 品川・名古屋間」に係る事後調査結果中間報告書（工事中）（その 3）（名古屋市）』でございます。

中央新幹線の報告書につきましては、内容も多くなっておりますので、前半と後半の 2 つに分けて議事を進めていきたいと思っております。

では、事務局から報告をお願いします。

[事務局] （「中央新幹線 品川・名古屋間」に係る事後調査結果中間報告書（工事中）（その 3）（名古屋市）の前半について説明）

[会長] ただ今の報告につきまして、ご意見、ご質問等はございますか。

[委員] 騒音と振動について、報告書 61 ページの苦情の状況と 71 ページの苦情の状況ですが、この表は時系列に沿ったものでしょうか。例えば 61 ページの表ですと、騒音対策を追加したにもかかわらず、そのあと商業施設や宿泊施設からクレームが入ったというふうに読めばよいのでしょうか。

[事務局] 上から順に時系列と聞いておりますが、具体的な工事の内容、苦情があった場所について詳細な話は聞いておりませんので、事業者を確認します。

[会長] その他、ございますでしょうか。それでは報告書の後半部分につきまして、事務局から報告をお願いします。

[事務局] （「中央新幹線 品川・名古屋間」に係る事後調査結果中間報告書（工事中）（その 3）（名古屋市）の後半について説明）

[会長] ただ今の報告につきまして、ご意見、ご質問等はございますか。

[委員] 地下水位と地盤沈下の調査地点の数や位置というのは、事業者が今回の調査で設定したのか、当初の計画通りの場所なのかどちらなのでしょう。

[事務局] 評価書に示されているものかどうかという質問でしょうか。

[委員] 前回の事後報告の時に、水位の変動と地盤沈下は関係があり、その両者の計測位置がずれてはあまり意味がないので、今後はできるだけ両方を揃えて調査してほしいと申し上げた記憶があります。

今回の報告を見ましても、報告書 74 ページの地下水の調査場所が詳しく書かれていないので、地点 01、02 は報告書 94 ページの地点 01、02 と一緒かわかりません。また、地下水位で測っている 03、04、05 と地盤沈下の 03 という位置がどれぐらい近い場所なのか、そもそもこの場所をどうやって選定したのかというのがわからないので、今後継続的に測定するのであれば、近い位置でやって欲しいという要望です。

[事務局] 前回の地盤沈下の測量標と観測井の場所については、報告書 32 ページで説明しますと、西工区の西端の北側に地盤沈下の測量標があり、南側に地下水の観測井戸があり、位置は少しずつれておりますが概ね一緒でございます。

さらに、中央東工区は地下水と地盤沈下の調査をタワーズなどのビル群の傍のほぼ同じような場所で行っております。

東工区は、地盤沈下は大名古屋ビルヂングの北にある下の青い線のところで測っており、地下水位につきましては、上の青い線で測っておりますので、少し離れているかなというところです。

[委員] わかりました。今後要望が出せるのであれば、できるだけ近いところにしていただくのと、図をもう少し用意していただきたいと思います。

先ほど工区の方でも、報告書 32 ページで丁寧に説明していただきましたが、口頭だとわかりにくいので、事業者がもう少ししっかりした図を作ってほしいという要望です。

もう一つ、沈下量の計測結果は、概ね安心して見られる結果になっていると思うのですが、隆起か沈下かというのは大きな違いです。先ほどの最大変位の説明で沈下または隆起と説明がありましたが、プラスの値なのかマイナスの値なのかというのが、両方が正の値で書かれているように見えます。沈下を正と取るなら、隆起は負で取るような形にしていきたいです。

さらに要望を言うなら、報告書 101 ページからのグラフは計測されている数値に対して縦軸がすごく大きく、ほとんど意味を成してないグラフなので、変動を見たいのであればもう少し妥当なグラフにして欲しいと思いました。例えば、地点が近いのであればその 3 地点を一つのグラフに載せれば、それぞれの地点の関係が見えてくると思いますので、ぜひ事業者伝えていただきたいと思います。

[事務局] 承知いたしました。伝えさせていただきます。

[委員] 報告書 116 ページと 117 ページの廃棄物ですが、表 6-8-5-1 (2) と表 6-8-5-3 の廃プラスチックと紙くずと木くずを見ると、廃プラスチックが 72%しか再資源化されておらず、183 トンも廃棄が出ているので、もう少し再利用できる方向を考えていただけないものでしょうか。

[事務局] 廃プラスチックは累計が 658 トンで再資源化量は 475 トンということで、再資源化率が 72%なので、もう少し再資源化率を高めるように事業者伝えてさせていただきます。

[委員] 報告書 91 ページに水質の結果が載っていますが、定量下限値未満を示す数値が異なっているのは何故なのかが気になりました。これは同じ分析機関でやっているものではなく、調査日ごとや試料ごとにより測定が違うのでしょうか。一応基準内なので問題ないと思うのですが、数字が気になったので質問させていただきました。

[事務局] 内容について事業者を確認いたします。例えば、カドミウムでは 0.0003 が下限値であったり、0.001 が下限値であったりするということで、例えば、0.0003 が下限値であれば、0.0004 が測れるはずということですね。

[委員] なので、この値が違う理由が、要は安定して測定できているのかと疑問に思っています。

[事務局] 項目によっても時期によっても変わっているところがありますので、分析をどのように委託しているかなど事業者を確認いたします。

[委員] 報告書 76 ページの浅い方の井戸の水位ですが、単位がメートルなので1メートル以上の変動があるように見受けられますが、単位はメートルですか。浅層で1メートルも水位が上下するという事は、すごく水が抜けているということではないのですか。

報告書 80 ページを見ていただくと、5メートルの間でこれだけ振れているということは1メートル以上の水位変動であって、浅層で1メートル以上の水位変動があるということは、かなり水が抜けているのではないかと思います。こんなに水が抜けていて大丈夫ですかという感じがします。こういうふうに水が抜けているとすると、例えばここでは名古屋駅の周りだけしか関係ないのですが、小牧の湿地群とかそういったところを通っている時にもメートルの単位で出すものでしょうか。

[事務局] 浅層はわりと雨の量で影響を受けて、結構変動が激しくなるものと思っています。名古屋市内でも、浅層の観測井戸で測っている場所があるのですが、例えば7月など雨が降る時期は、浅層の地下水位は結構高くなりやすいというイメージがあったので、変動が大きいのもあながち間違いではないと思うのですが、そのあたりは事業者の確認をいたします。

[委員] 取っているところの地層構成が分からないのではっきり言えませんが、すごく砂が卓越しているような場所であれば、そういう傾向があるかもしれません。例えばこの浅層の場所が地中壁工事をしている付近で、工事の影響があったのかと思ったのですが、やはり地層構成を見ないと何とも言えないので、参考として名古屋市や県で測定しているようなデータと比較していただくのもいいのかなと思いました。

[委員] せっかくですから、降雨と関係あるのだったら降水量も出していただければありがたいかなと思います。

[事務局] はい、わかりました。

[委員] 報告書 91 ページの水資源の結果ですが、02 地点と 03 地点で、数値自体は低いものの未検出から検出になったり、数値が微増しているのが気になります。例えば、ふっ素は、02 地点の令和 3 年 2 月の調査結果で 0.05 未満となっている値が、令和 4 年 2 月の調査では 0.08 になっており、明らかに数値が出ています。工事前の値に比べてこの調査結果は増加していると捉えるのか、pH の影響によるものと捉えるのかを確認いただきたいと思います。

また、03 地点の浅層観測井の調査結果でも、令和 3 年 1 月と令和 4 年 1 月の調査結果で 0.17 だった値が、令和 5 年 1 月には 0.20 に増えています。03 地点の深層観測井の調査結果でも、令和 3 年 1 月で 0.10 だった値が、2 年後の令和 5 年 1 月に 0.15 になっています。これを増加と捉えていいのか微妙な値ではありますが、連続的に増えているのでその辺りは確認していただきたいと思いました。

[事務局] 3 年分しか結果がないのでたまたま増えているだけかもしれませんので、確認させていただきます。

[委員] 工事前の値があるのか、そもそもこの最初の値が工事前と捉えていいのかというところもあると思うので、例えばこの 0.17 が工事前で、0.20 なら多少の変動と捉えるかもしれませんが、そもそも工事前が検出されてないという話だと、話が変わってきてしまいます。測っている場所での工事がどのタイミングかを考えた上で、工事開始のタイミングのものと比較して、この評価が妥当なのかどうかを確認していただきたいと思います。

[事務局] 基準値以内でありますので問題ないとされておりますが、事業者の確認いたします。

[委員] もう一点が、報告書 117 ページの資源化のところ、資源化率が工事間利用されたものと単純に再資源化したものの合計になっているという話でしたので、実質的に新規で投入した量が工事内流用したものによって変動すると思うのです。そこがどうなっているのかがこれでは見えないので確認いただければと思いました。

再資源化量は、表の下に再資源化された量と工事間利用された量の合計と書いてあるので、再資源化したものはまた何らか使える形にしたもので自分の工事には使っていないで、一方で工事間利用された量は、自分たちの工事でもう一回利用しているということになるので、工事間利用された量が多ければ新しく投入するものが減りますが、これが少なければ全部新規で投入しているという話になってしまうので、このあたりがどう捉えているのかというところを確認いただきたいと思います。

例えば、もともと工事間利用されているものをなるべく全部ここで使って、残りが再資源化になっているのか、基本的には全部再資源化して、工事間利用で使わずに新規のものを導入しようとしているのか、前の経緯を知らないのだからこれだけ見るとそれが気になります。

[事務局] 確認いたします。

[会長] その他、ございますでしょうか。それでは、最後にその他として事務局から何かご報告などございますか。

[事務局] (参考資料について説明)

[会長] ただ今の報告につきまして、ご意見、ご質問等がありますか。

[会長] ありがとうございます。本日、予定されていた議題は以上ですが、事務局から他に何かございますか。

[事務局] 本日は久しぶりに対面で開催することができましてありがとうございます。たくさんのご質問、ご意見をいただきましたので、事業者にも内容を確認して取りまとめて、委員の皆様にご報告したいと思っておりますのでご理解いただきたいと思います。

次回の審査会につきましては、先ほど係長より説明しましたとおり、年度明けぐらいかなと思っておりますので、よろしく願いいたします。また、近づきましたらご連絡させていただきます。

なお、本日お手元にご準備いたしました『市条例の規程集、技術指針解説書、温室効果ガスマニュアル』の3点につきましては、お持ち帰りにならないようお願いいたします。

以上でございます。

[会長] それでは、これをもちまして本日の審査会を終了いたします。ありがとうございました。